

電源立地地域温排水対策事業調査 (要 約)

中西 廣義・泉田 哲志

将来予想される大量の温排水を海面養殖等に活用するため、クロソイ、ウスメバルの幼魚を用いて陸上と海面での中間育成を行い、基礎資料を得ることとした。なお、詳細については「平成4年度電源立地地域温排水事業調査報告書（大間地点）、同報告書（東通地点）」（平成5年3月、青森県）として報告した。

1. 大間地点（大間町漁業協同組合）

- (1) 試験魚 当センターで平成4年度に種苗生産したクロソイ当才魚（平均全長77.4mm、平均体重7.6g）2,000尾を用いた。
- (2) 試験期間 平成4年9月3日～同年12月31日
- (3) 試験場所 大間町漁業水産協同組合水産資源中間育成施設、5トン円形FRP水槽1面を使用。
- (4) 餌料 マス用配合飼料P3を朝、夕2回投与した。
- (5) 試験結果
 - ・水温 平年よりも1～2℃低めに推移した。
 - ・成長 飼育期間中の全長、体重の平均日間成長量は0.44mm、0.27gであった。
 - ・生残状況 120日間の飼育での生残歩留りは71.1%であった。

2. 東通地点（小田野沢漁業協同組合）

- (1) 試験魚 当センター実験筏および陸上水槽で中間育成してきたウスメバル3年魚（平均全長174.1mm、平均体重106.8g）750尾を用いた。
- (2) 試験期間 平成4年7月29日～同年9月19日
- (3) 試験場所 下北郡東通村小田野沢漁港内、5m角網生簀一面を使用した。
- (4) 餌料 マス用配合飼料P3を朝、夕2回投与した。
- (5) 試験結果
 - ・水温 本年度の夏は高めの水温で経過し、最高水温は22.6℃であった。
 - ・成長 飼育期間中の全長、体重の平均日間成長量は0.62mm、0.70gであった。
 - ・生残状況 今年度の生残歩留りは6.6%であった。大量減耗の最大の要因は9月上旬に、港内に大量の海藻（コンブ等）が入り込み、網目の目づまりによる酸欠死であった。